

働き盛り世代へ送る

運動習慣で仕事も人生もアップデートしよ☆

～かごんま健康寿命延伸計画～

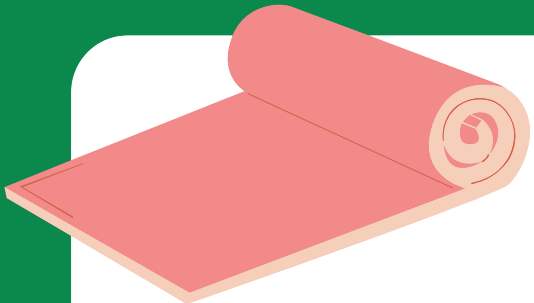
鹿児島大学 法文学部 崎野ゼミ
きっちみー：吉見・杉野・小園・千



目次

- 1 計画のはじまり
- 2 鹿児島県の実況
- 3 課題と目指す姿
- 4 政策提案
- 5 まとめ・伝えたいこと





計画のはじまり

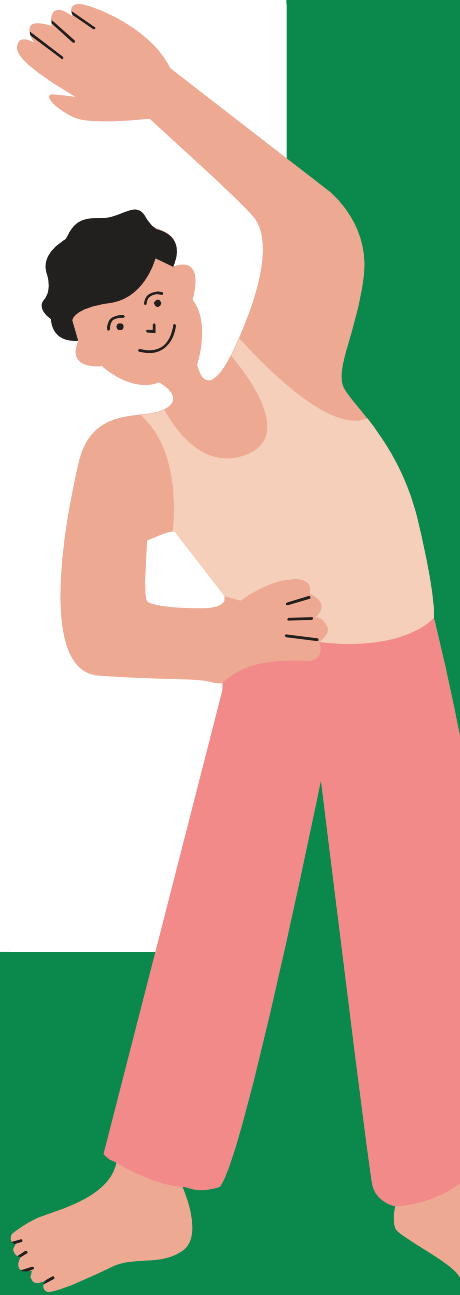
健康づくり × 壮年期

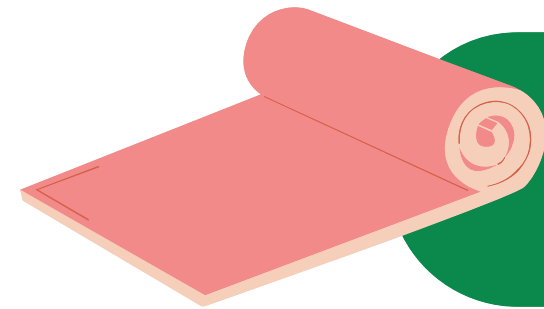
テーマ設定の動機について

元々興味があった「健康づくり」と「スポーツ」という分野であったが、それらを必要としているのに不足しがちな、働き盛り世代（壮年期）に向けて、なにか良い政策がないかと考え始めたことがきっかけ。

私たちが考える壮年期

「壮年期」は一般的には青年期と老年期の間の時期を指すことが多いが、その幅は定義によって異なり、20歳～60歳を指すことや、25歳から44歳を指すこともある。厚生労働省のデータでは、33歳～40歳とされている。これらを踏まえ、「働く世代」の意味も込めて、私たちは壮年期を社会人の19歳～65歳に位置づけることにした。





運動することの意義について

厚生労働省「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」

身体活動（安静にしているときより、多くのエネルギーを使う、骨格筋の収縮を伴うすべての活動のこと）・運動の量が多い者は少ない者と比較して、循環器病、2型糖尿病、がん、ロコモティブシンドローム（運動器の障害のために移動機能が低下した状態のこと）、うつ病、認知症の発症、罹患リスクが低いことが報告されている！



身体活動により、妊婦及び産後の女性、慢性疾患や障害のある人を含む全ての人が健康増進効果を得られる。

参考：WHO「身体活動・座位行動のガイドライン(R2)」



身体活動・運動は全ての国民が取り組むべき重要課題であるといえる！

WHOは
死亡に対する
危険因子として、
「身体活動・運動
の不足」を挙げ
た！

49.3%
予防可能

令和5年度

鹿児島県主な死因

- ① がん(悪性新生物)21.3%
- ② 心疾患14.2%
- ③ 老衰12.0%
- ④ 脳血管疾患7.3%
- ⑤ 肺炎6.5%

鹿児島県の現状

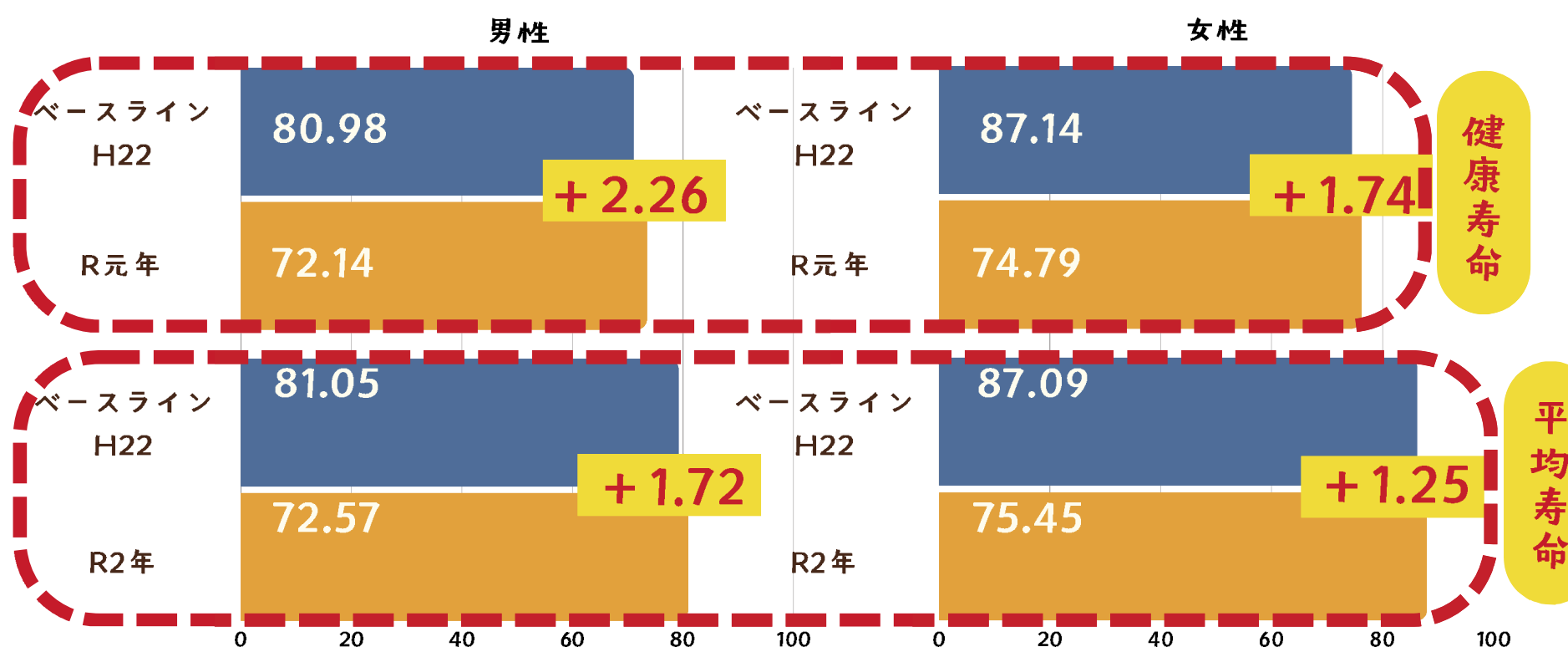
健康かごしま21 最終評価からみる

健康かごしま21

「健康かごしま21」とは、鹿児島県における県民の健康増進を目的とした総合的な健康増進計画である。これは国の「健康日本21」に基づき、県独自の状況や課題を踏まえて策定され、県民一人ひとりの健康寿命の延伸や生活の質の向上を目指し、生活習慣の改善や健康的な社会環境の整備に取り組むものである。

(参考：鹿児島県「健康かごしま21〔令和6年度～令和17年度〕」)

健康寿命と平均寿命の差



鹿児島県：健康かごしま21(平成25年度～令和5年度)の最終評価より作成

健康かごしま21の全体目標の一つである「健康寿命の延伸」は、目標値が「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」と設定されている。最終評価では男女ともに目標値が達成が報告された。

生活習慣病のD評価(最低評価)

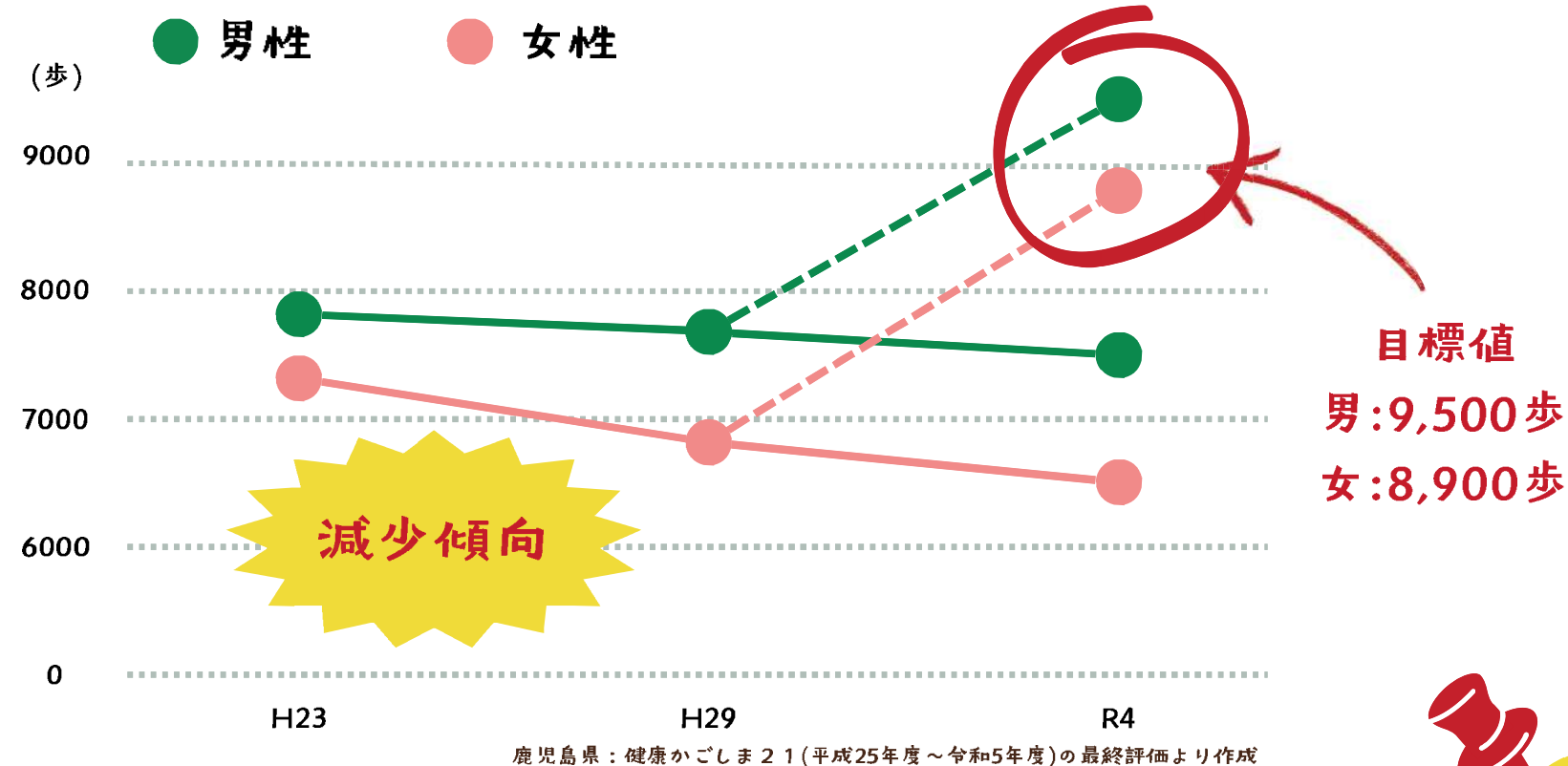
高血圧有病者	メタボリックシンドローム
【目標】 男:153,300 女:135,100	【目標】 H20の値より 25%減少
【結果】 男:237,400 女:199,200	【結果】 H20:151,000 R2:171,000

鹿児島県：健康かごしま21(平成25年度～令和5年度)の最終評価より作成

生活習慣病の該当者・予備軍が増加傾向にあり、目標値に届いていない。状況は確実に悪化している…

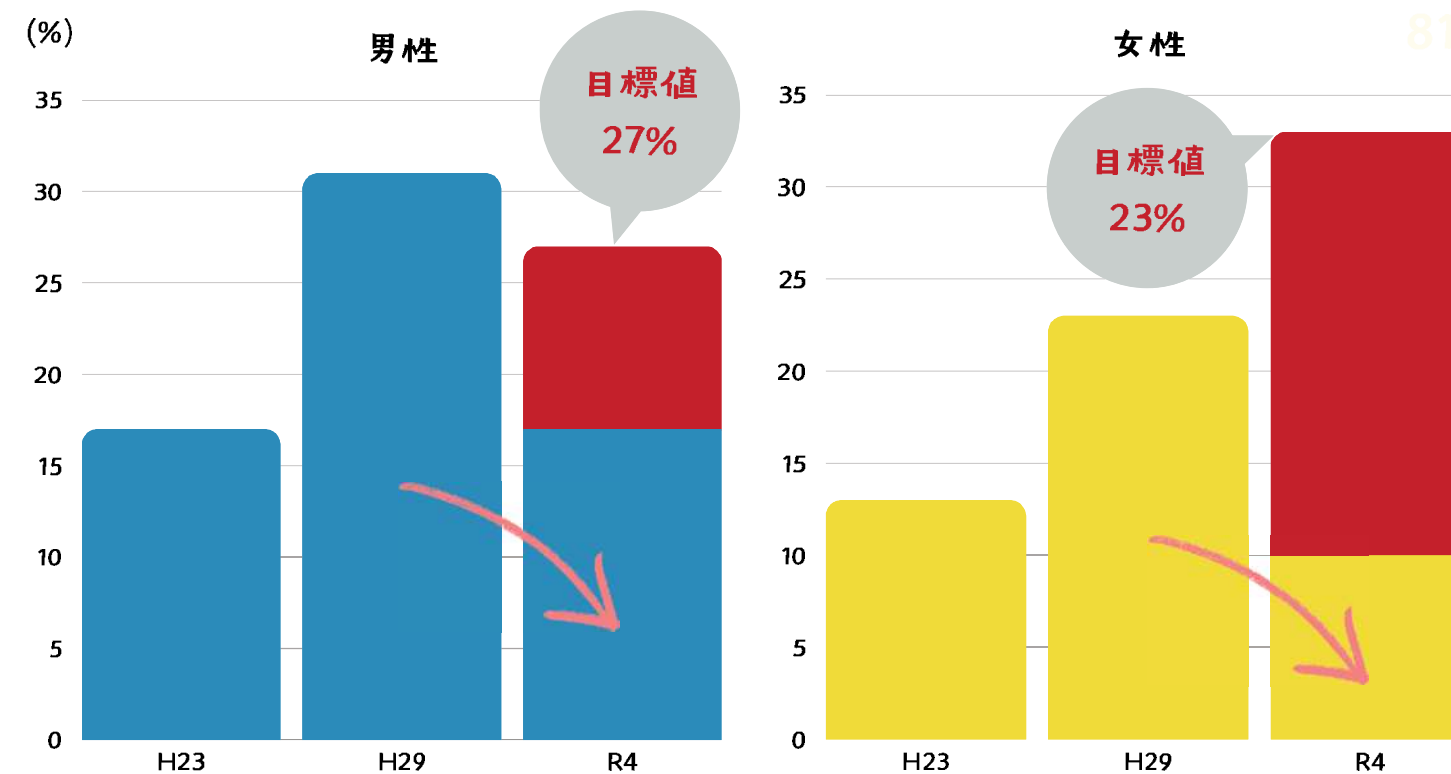
鹿児島県の現状 健康かごしま21 最終評価からみる

日常生活における歩数(20～64歳)



日常生活における歩数は、厚生労働省が「男性:9,200歩、女性:8,300歩」と目標を設定している。
鹿児島県民(20～64歳)の歩数は国と県の目標値を大きく下回っており、年々減少傾向にある。

運動継続率(20～64歳)



※ここでの「運動継続率」とは、「1日30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者の割合」を指している。

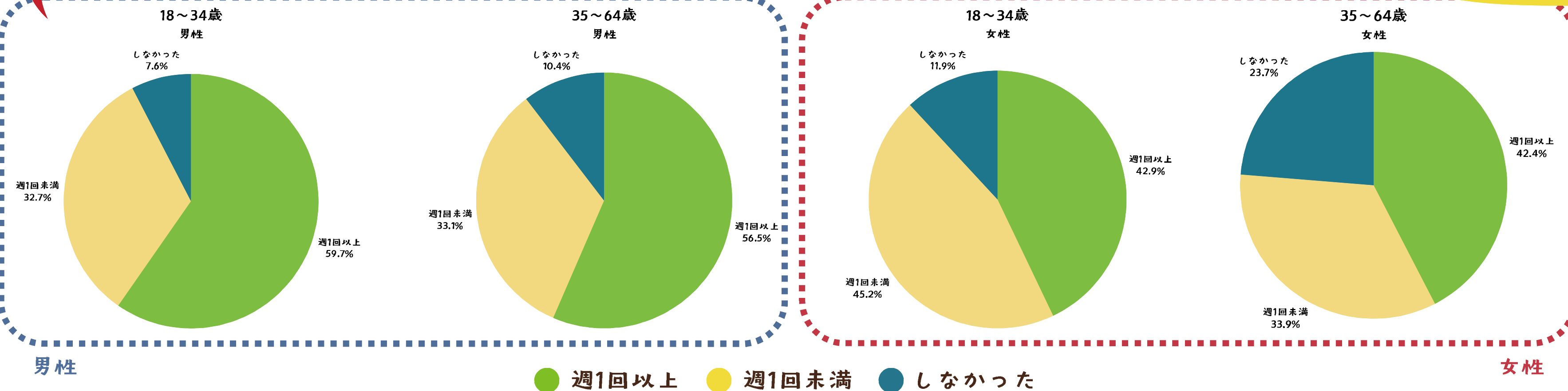
運動継続率は、H29年度には上昇したものの、R4年度には大きく下がり、男女ともに目標値を下回っている。

鹿児島県世代・年代別運動率

男性は週に1回以上が
過半数を越えてる！

この1年間にどのくらいの頻度で運動やスポーツを行いましたか？（R5）

「しなかった」の割合は
女性の35～64歳が一番大きい！
育児や家事などで時間がないの
だろうか？



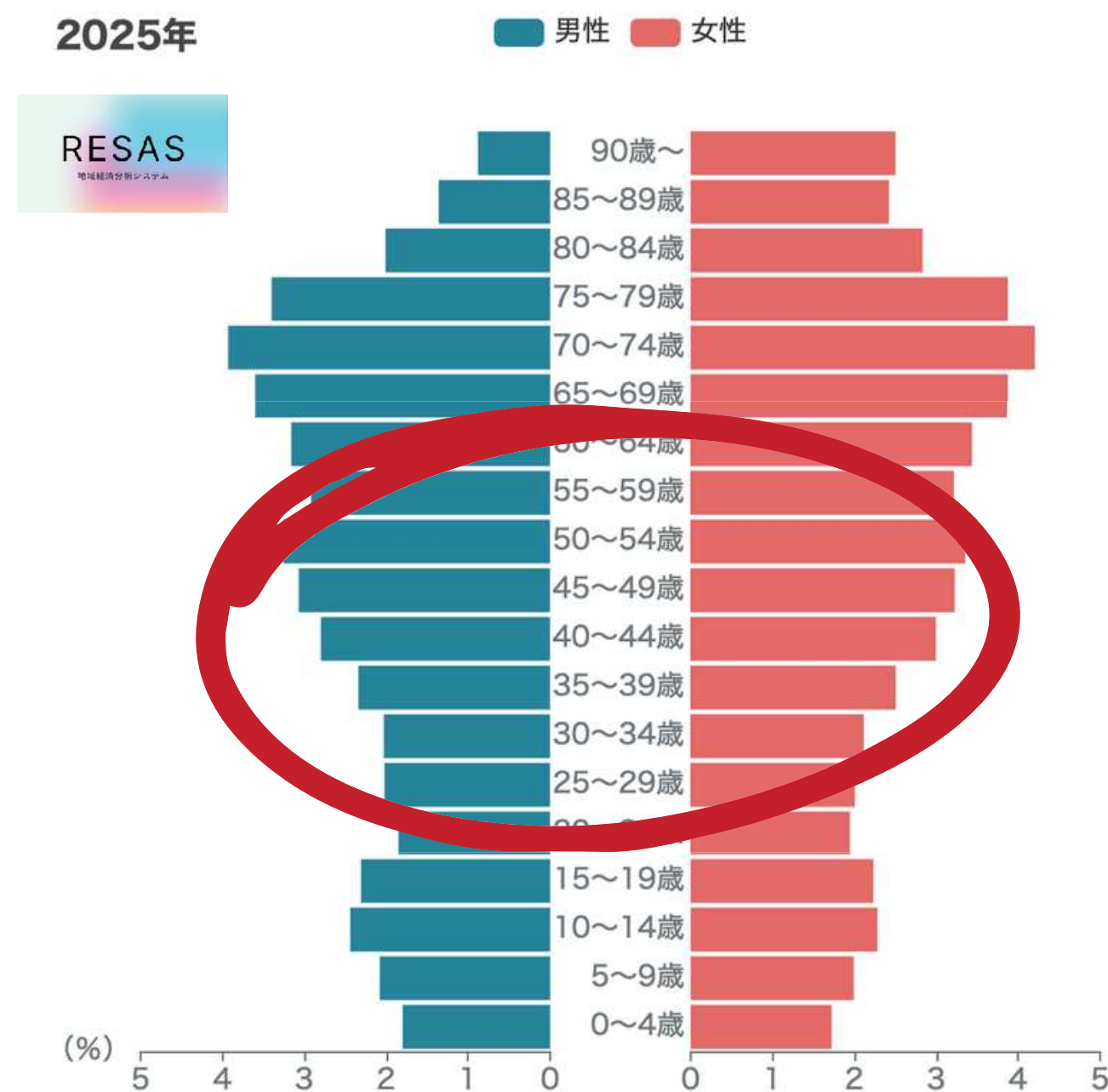
参考：鹿児島県『令和5年度「生涯スポーツ振興のための調査」公開用資料（結果・分析）』より作成

- ・ 男性は「週に1回以上の運動をする」と回答した割合が最も大きく、過半数を超えている。
- 逆に、「週に1回未満の運動」「運動をしなかった」と回答した割合が約半数であることが分かる。
- ・ 女性は「運動をしなかった」と回答した割合が大きく、世代的にも仕事や育児で時間が無いのかと考えられる。また、運動に対する意識が低い可能性も予想される。

課題と目指す姿

現状から見える

鹿児島県の年代別人口割合推移



【出典】RESAS 人口構成推移・人口ピラミッド

19歳～65歳の壮年期は全体の49.2%(R5時点)。
2025年に最も層が分厚いと予想される50～60代
が10～20年後には前後期高齢者層に加わる。

運動の効果(再確認)

運動をよく行っている者は、生活習慣病をはじめとする様々な病気の罹患率・死亡率が低いこと、また、身体活動や運動がメンタルヘルスや生活の質の改善に効果をもたらしている。

(参考：厚生労働省)

現状から見える課題

- ①生活習慣病罹患患者・予備軍の増加
- ②日常生活における歩数の減少
- ③運動継続率の低さ

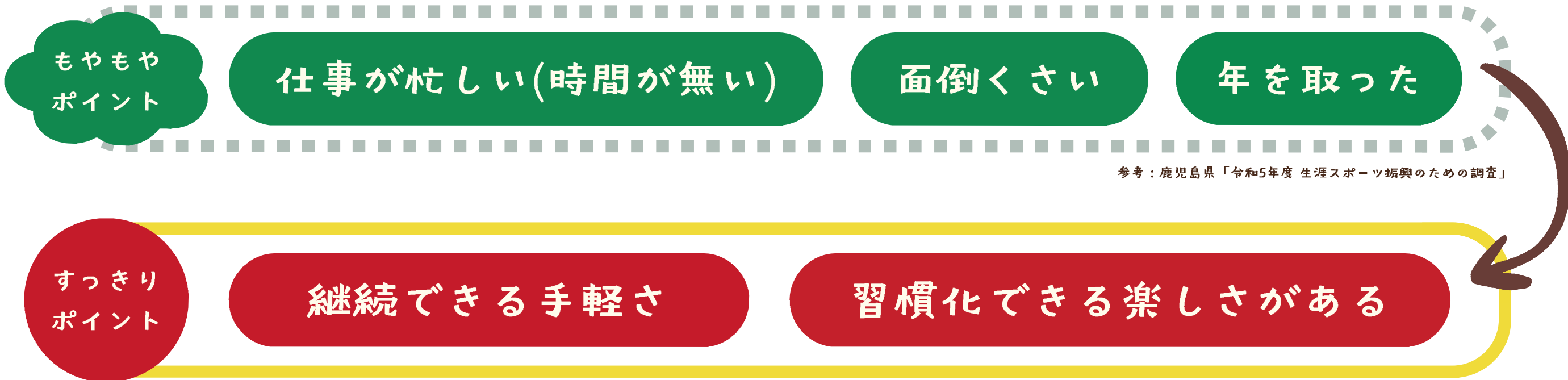
目指したい姿

運動の効果の再認識→運動習慣の獲得→生活習慣病の予防→壮年期世代の健康寿命の延伸とその派生的効果



提 案 政 策

運動の習慣化で健康寿命のアップデート★



提 案

壮年期世代の健康寿命延伸を第一の目標とし
鹿児島県の健康寿命延伸を第二の目標とする

「かごんま健康寿命延伸計画」

健康応援アプリ「kencom」

楽しみながら、健康に。

kencomってこんなアプリ！

- 歩数・体重・血圧などを記録・管理できる
- 自分に合った健康情報が届く
- 日々の健康行動でポイントが貯まる
- 特定健診結果がスマホで分かる



kencomは、「楽しみながら、健康に。」をテーマに、特定健康診断調査や毎日の歩数などをスマホで確認でき、個々の利用者に合わせた健康情報の配信や、抽選会、キャラクター育成ゲームなど、楽しく健康になれるコンテンツが豊富。

鹿児島県も健康意識の向上や、市町村の健康づくりの取組の推進等を図るため、令和6年10月から運用しており、一年半の事業実施期間を設けている。

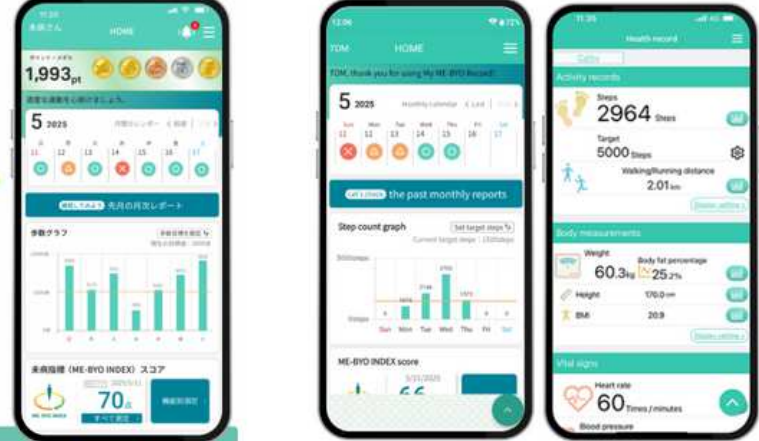
参考：鹿児島県『鹿児島県健康応援アプリ「kencom」について』

神奈川県「マイME-BYOカルテ」

健康をもっと身近に。

マイME-BYOカルテ

毎日のアプリ利用で
未病改善行動を習慣化



マイME-BYOカルテは、神奈川県が提供する、個人情報記録・管理・見える化することで未病改善を支援するアプリ。日々の体重や歩数、お薬情報、母子健康手帳、健康診断などを一元管理し、未病指数の測定や、未病改善行動の自己評価機能も利用できる。また、登録した健康情報は県のサーバーにバックアップされるため、災害時などいつでもどこでも確認可能。家族の情報もまとめて記録することもできる。

参考：神奈川県『スマートフォンアプリ「マイME-BYOカルテ」』

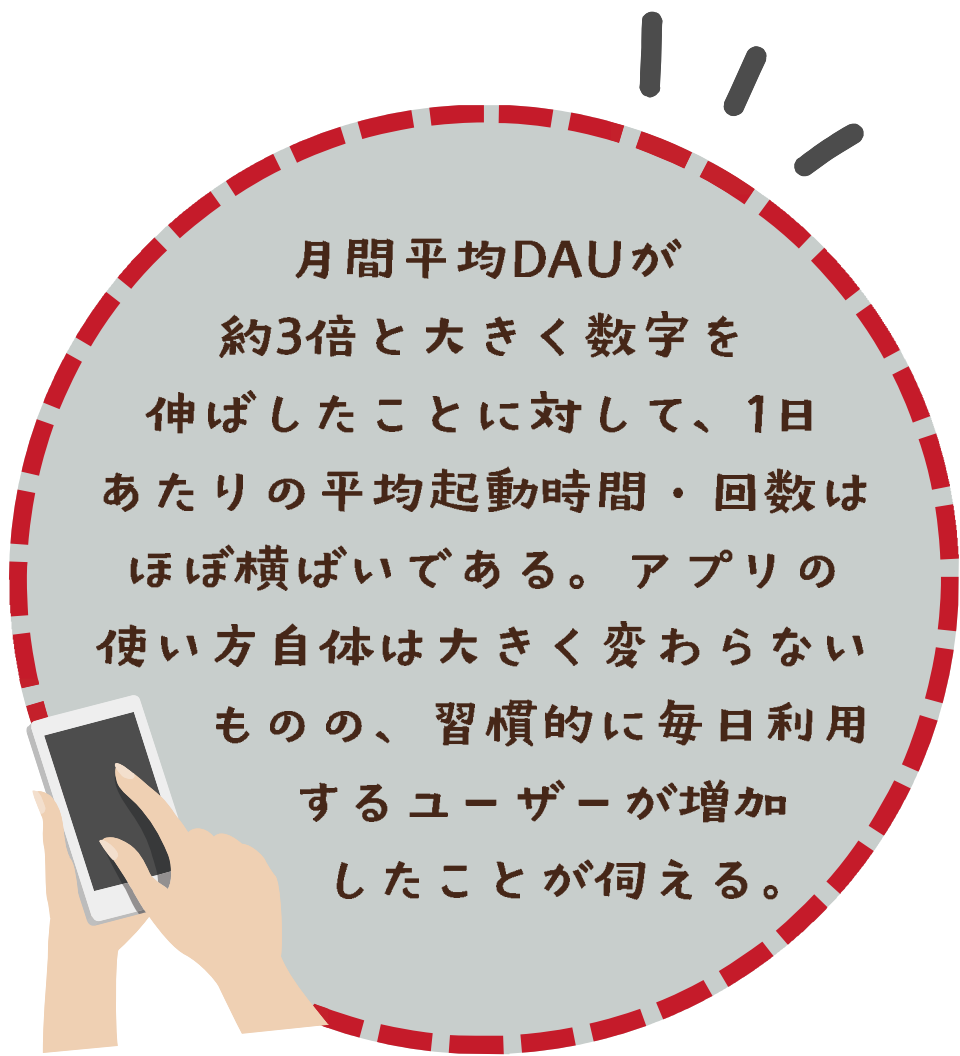
私たちも実際に利用してみました！

データからみるヘルスケアアプリ市場

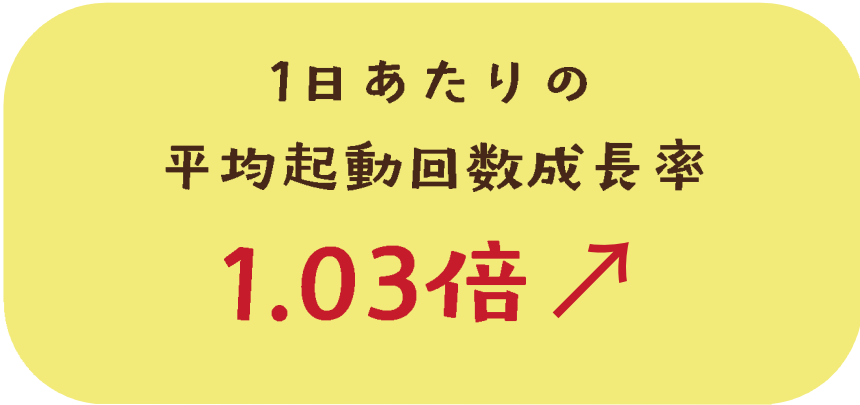
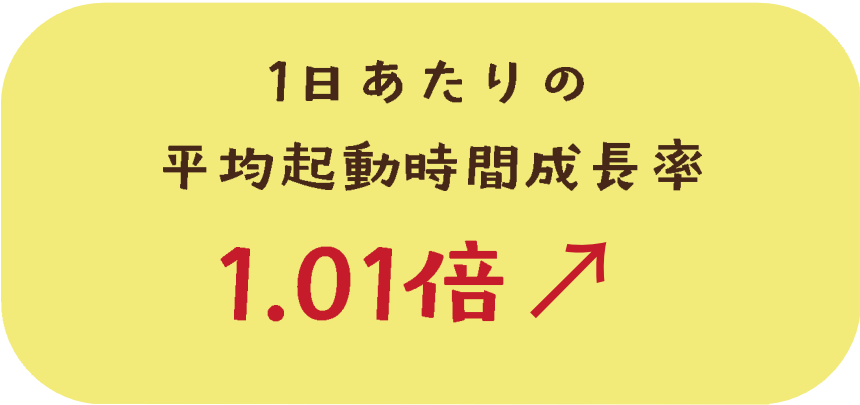
●ヘルスケアアプリの市場規模

2022年9月の日本のスマホユーザーにおけるヘルスケアアプリの利用率は53%。3年前の2019年9月と比較すると、21ポイント増加。1人当たりのヘルスケアアプリ利用個数も1.98個と、2019年9月の1.61個から増加。新型コロナウイルスの影響から、ユーザーのヘルスケアへの興味関心が高まるとともに、関連領域のアプリが多数登場したことが要因の一つだと考えられる。

(参考：フラー株式会社「App Apeヘルスケアアプリ市場調査レポート」)



●1年間の成長率(2021年9月と2022年9月を比較)



(フラー株式会社「App Apeヘルスケアアプリ市場調査レポート」をもとに作成)

鹿児島を“健康”にするヘルスケアアプリ

以上のデータを踏まえた上で、鹿児島県版ヘルスケアアプリを提案！主要な役割は一般的なものと同じ、歩数、心拍数、睡眠、栄養など、様々な健康データを一元管理し、ユーザーの健康状態を客観的に把握できるようにすることである。

特徴となるポイント

「鹿児島県版」であることや、他アプリとの差別化を図るためにも、本アプリならではの特徴となるポイントを提案する。

マイナンバーカードで
本人確認

優良利用者の表彰

ポイントの貯め方

家族や友人と
ランキングで競おう

ポイントの使い方

キャラクター育成ゲーム

③ 私たちの考え

政策の提案

課題

kencom(鹿児島県)では健康保険証で本人確認

利用可能までに1~2ヶ月かかることがある
(地方自治体の場合は3ヶ月以上)

参考: kencom「本人確認→保険者番号確認→ご注意」

もやもや ポイント

アプリをインストールしてポイントを貯めたのに、使うことができない。
ポイント利用に期限があれば、せっかくのポイントが無駄になってしまう。

提案

マイナ保険証の顔認証で本人確認

マイナDX化活用で本人確認がよりスムーズになる！

すっきり ポイント

スムーズな本人確認ができ、ユーザーがポイントを貯める＆使うことにつながる！
マイナンバーカード高保有率県の課題である「利活用」にもアプローチ！

保有率は
全国2位！

鹿児島県
マイナ保有率

人口(令五)

1,591,699

保有枚数

1,245,284

保有枚数率

78.2%

参考: 総務省「マイナンバーカードの交付・保有枚数等について」

マイナンバーカードで本人確認





ポイントの貯め方

条件クリアでポイントを貯めることができるシステムを導入！
その「条件」について、いくつか提案！

基本的な条件

①日常生活における歩数②日々の健康記録(年齢や状態に応じて)③各種健康診断の受診など

✓運動ができない2つのもやもや

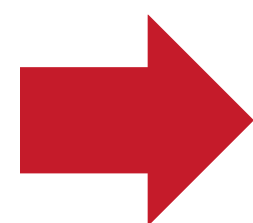
◎心理的要因

- ・運動＝ハードという固定観念
- ・加齢への不安感→怪我や疲労を恐れて運動を控える
- ・継続のモチベーション低下

◎社会・制度的背景(鹿児島の特徴)

- ・車社会で日常的な運動機会が不足と思われる
- ・参加しても報酬や交流機会が少なく、「続ける理由」が見つけにくい

参考：鹿児島県HP「鹿児島県の地方公共交通の問題点と課題の整理」



もやもやの解決！大学生 × 壮年期世代

④大学生主体健康づくりイベント

関わっていそうで、関わる事ができていない大学生×壮年期世代。
大学生が主体となって地域に飛び込むチャンスにもなるか？



※先行事例「鹿屋体育大学/公開講座」

鹿屋体育大学では、社会貢献活動の一環として地域住民の教養や競技力の向上を目的とした公開講座を開設している。小学生から中高齢者まで、ニーズに合った講座があり、受講料は内容に応じて設定されて

いる(無料～10,500円)。申し込みは基本的にウェブで行う。担当は鹿屋体育大学広報・企画室の広報係。参考：鹿屋体育大学「公開講座」

もやもやの解決！大学生 × 壮年期世代



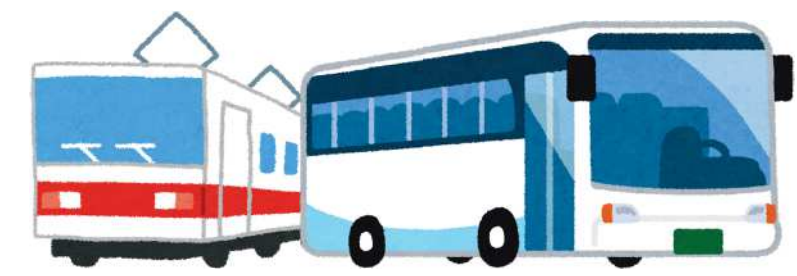
アプリから
イベントの登録
出席ができる！

- ①アプリの「大学」欄から学生が団体とイベントを登録申請。
- ②大学側に申請の通知が来る。本人確認や申請内容の審査。
- ③アプリの「イベント出席」欄からユーザーが地域や分野を選択し、マッチしたものに応募。

課題になると思われること

- ・団体やイベント登録の審査が通常業務に追加され、大学側の負担になるか。

公共交通機関の利用



イベントに参加するときだけでも「脱車社会」「駅まで歩いてみる」

- ✓公共交通機関(または徒歩)でイベントに参加したユーザー
- ✓駅近の施設で実施した団体

ユーザーや団体のアプリ内ランクアップ★ゲージが貯まると特典ゲットのシステムがあるといい。

課題になると思われること

- ・地域差が出る可能性がある。
- ・駅近の範囲の設定と、その施設との連携が必要になるか。

アンケートと
クーポンゲットで
継続性を！



学生側

- ・アンケート機能でイベント後のフィードバックを獲得！
→目的に応じてデータを活用(研究利用や次回の改善点として)
- ・地域の健康に貢献した対価としてポイント獲得！

ユーザー側

- ・イベント参加でポイントやクーポンを獲得！

課題になると思われること

- ・クーポンの利用対象の選定と財源の確保。

ポイントの貯め方

条件クリアでポイントを貯めることができるシステムを導入！
その「条件」について、いくつか提案！

⑤ プロスポーツチームの試合観戦

鹿児島県にはいくつかのプロスポーツチームが存在する。子どもから高齢の方まで試合会場に足を運ぶ姿が見られ、壮年期世代も熱心なサポーターが多い。親世代の壮年期世代だと、子どもと一緒に観戦＝ポイントが貯まることに繋がる。また、チームの知名度向上や新規ファンの獲得にも繋がることが期待される。

鹿児島のプロスポーツチーム（一部抜粋）

鹿児島ユナイテッドFC	鹿児島レブナイズ	ブルーサクヤ鹿児島
EXPLORERS KAGOSHIMA.EXE	フラ－ゴラッド鹿児島	シエルブルー鹿屋

ポイント付与までの流れ



課題

- ・ポイント付与までの流れ(システム)の再現性→関係団体との連携
- ・チームの活動拠点や試合会場の場所によって地域差が生じるか



③ 私たちの考え

政策の提案

ポイントの貯め方

条件クリアでポイントを貯めることができるシステムを導入！
その「条件」について、いくつか提案！

⑥ スポーツエールカンパニー施設の訪問

スポーツエールカンパニーとは

スポーツ庁が、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行っている企業を「スポーツエールカンパニー」として認定している。この制度により、従業員がスポーツに親しめる環境づくりを進める企業の社会的評価が向上することで、「壮年期世代(働き盛り世代)」をはじめとして、国民全体のスポーツ実施率の向上につなげていくことを目標としている。

参考：スポーツ庁「スポーツエールカンパニー」

鹿児島県の認定企業は9社/1,498社(2025)

参考：文部科学省「スポーツエールカンパニー2025認定企業一覧」より作成

なぜスポーツエールカンパニーに注目？

「かごんま健康寿命延伸計画」の第一の目標は「**壮年期世代の健康寿命延伸**」である。しかし時間が無いために、イベントや講座を開催しても参加できないユーザーがいる可能性がある。そのため、スポーツエールカンパニーの必要性和認知度が向上すれば、より多くの企業が資格を得ようと動くことを期待した。**健康寿命延伸を内側からも支援できる県を目指して！**

ユーザー

県内のスポーツエールカンパニーの施設を訪れる、もしくは利用する

本人確認でポイントゲット！

認定企業

- ✓ アプリ内広告の権利を獲得！
- ✓ 企業をさらに多くの人に知ってもらう＆利用してもらう機会を獲得！

制度の認知向上が期待！



③ 私たちの考え

政策の提案

ポイントの使い方

貯めたポイントの使い道をいくつか提案！

1

県内限定クーポン

県内で利用可能のクーポンに交換可能！

✓ 先行事例：ぐりぶークーポン

2

抽選会の実施

基準以上のポイントで抽選会に応募！

✓ 先行事例：ぐりぶー国保ポイント抽選会(kencom)

3

アプリ内通貨

アプリ内の通貨として利用できる！キャラクター育成ゲームなどで利用可能。

期待できる効果

- ✓ ポイントを貯めようという意識の向上
→ イベント参加や運動機会の促進へ
- ✓ クーポンの配布によって経済波及効果が予想される。
→ (例) ぐりぶークーポンの場合
クーポンの発行総額の約2.8倍(97億2,500万円)に相当する経済波及効果が推計された。
- ✓ クーポン対象店への集客の促進
- ✓ アプリ内通貨で、アプリを楽しく利用

参考：YouTube「鹿児島県ニュースKTS2023/03/29」

課題になると思われること

- ・ クーポン対象店や商品決め
- ・ クーポン対象先との連携
- ・ 抽選会の商品決め
- ・ 通貨利用のためのアプリ内ツールの充実

優良利用者の表彰



1年に一度、総ポイント数で優良利用者を表彰するイベント。
上位者もしくは基準を満たした者に賞状を贈呈する。

ざっくりとしたイメージ

歩数などの健康記録やイベント参加で
基準以上のポイントを獲得したユーザー



県庁もしくはウェブ上で
表彰式を執り行う

効果

☒ 表彰制度で今後の利用モチベーションの向上に繋がることが期待される。
→ アプリの全体的な効果の底上げに！

課題

- ・ 表彰式が「県庁」の場合
 - × 人と時間とお金がかかる？
 - 多くの人にアプリが認知される？

- ・ 表彰式が「ウェブ」の場合
 - × 達成感に欠ける？
 - アプリ内で簡潔に実施できる？

家族や友人とランキングで競おう

アプリのアカウント情報を共有することで、家族や友人間で歩数などをランキング形式で競うことができる。健康づくりは、一人ではなかなか気が進まないときもあるが、**仲間がいればモチベーション向上に繋がる。**

歩数ランキングで仲間と競おう！

今日の歩数ランキング

- 1 **すぎの** 15,870歩
- 2 **あい** 9,731歩
- 3 **じえい** 6,495歩

リアルタイムで歩数を更新↑

家族の健康状態を確認しよう

家族間でアカウント情報を共有することで、お互いの健康状態をチェックできる。

災害時にも役立つ？！

位置情報機能があると、災害時の対応にも役立つことが期待される。

課題

- ・機能が充実すればするほど、開発費用が増大する→財源の確保が可能か？
- ・維持＆管理にどれくらい費用をかけられるか

4

③ 私たちの考え

政策の提案

1

こどもたちそれぞれに「ご当地要素」！
どの子を育てるか選択できる！
（例：歴史、自然、食…）

2

ポイントで装飾品（芋焼酎やしろくま
などの特産品）や背景（観光
スポット）をゲットし、
オリジナル空間を作る
ことができる！

ぐりぶーとさくらと一緒にこどもたちを育成しよう！

毎日のログインで
成長 & ポイントゲット！



参考：かごしまPRキャラクターぐりぶー公式サイトより引用

キャラクター育成ゲーム

3

プレイヤーが実際に観光
地でQRコードを読み取る
とゲーム内でレアアイテム
入手
→ 観光促進にもつながる

4

成長すると観光スポットが解禁され、お出かけ
ができる！そこで他ユーザーと交流もできる。

日常的に遊べるミニゲーム
（芋掘り、火山灰キャッ
チ、温泉掘り当てなど）で
飽きない！



④ 政策の流れ

県

実証事業提案者

▶主にアプリ開発を担う団体

実証事業提案者(案)

- ✓株式会社ヒイデル
- ✓株式会社クエイル
- ✓株式会社インパクト
- ✓株式会社システムメディアなど

パートナーの選定

- 実績とサポート体制
希望するアプリの機能に対応でき、十分な実績のある開発会社を選ぶことが重要になる。
- 費用や納期の調整
予算や納期などの条件に合致する開発会社である必要もある。

事前相談・要件確認

仮申込み
(計画の具体化・専門家助言)

採択審査
(県・審査委員会)

倫理審査

本申込み
(参加者への説明・同意を含む)

県ホームページにて
結果発表

外部の専門家による
第三者評価

実施報告・データ分析

実証事業の実施
(実際にアプリを
運用・利用者参加)

県による採択公表
(実証開始へ)

約3ヶ月(目安)

実証期間(想定)約1~6ヶ月

参考：神奈川県「ME-BYOリビングラボレポート」より作成



⑤ 政策的提案
派生的効果

「かごんま健康寿命延伸計画」

壮年期世代の健康寿命延伸を第一の目標とし
鹿児島県の健康寿命延伸を第二の目標とする

「鹿児島県の健康
寿命延伸」とは？

第一の目標が達成
できたとき…

①医療・介護費用の削減が期待できる

健康状態が良好な期間が長くなることで、慢性疾患の発生が抑えられ、医療費や介護費用の負担が軽減される可能性がある。

参考：ニッセイ基礎研究所「健康寿命の延伸とは？」

②生産性の向上と経済活動の活性化が期待できる

長く健康に働けることで、生産性の向上が期待される！また、キャリアの形成や、収入の維持がしやすくなり、消費活動が活発になる可能性も。

県民の健康寿命の延伸→鹿児島県の「財政や経済」の健康寿命(≡持続可能性)の延伸につながるのでは？

提案内容の整理

高齢者の増加が見込まれるなか、生活習慣病罹患者や予備軍の増加、歩数減少、運動継続率の低さから、特に運動が不足しがちな「働き盛り＝壮年期世代を中心とする健康づくり」を計画！

継続→習慣を目指すための「かごんま健康寿命延伸計画」を提案！県民、とくに壮年期世代の健康寿命の延伸を目標とする。

第一の目標が達成できたとき、派生的効果として期待される第二の目標「鹿児島県の健康寿命(＝経済や財政の持続可能性)の延伸」を掲げる！



私たちの思い



- ✓ 気持ちと行動をアップデートすることで、壮年期世代を中心とする県民のみなさんが、できるだけ長く健康でいてほしい！
- ✓ この提案が「これからのために運動しなきゃ」「でもできない…」と思う壮年期世代の受け皿になることを願って！

補足資料

①

規模感はどれくらい？予算は？

どれくらいの人に参加すれば政策が成功したと言えるのか、そのために投じる予算はどれくらいか、という全体的な規模感について考えるにあたり、先行事例のデータから引っ張ることしかできず、本編での提案が難しいと考えたため補足資料として提示する。

神奈川県 マイME－BYOカルテの場合

ヘルスケアICTシステム推進事業費 予算額：2億6898万円

- ✓ マイME－BYOカルテと連携するアプリの普及拡大やアプリ機能の追加・試行など→1億7,482万円
- ✓ マイME－BYOカルテと連携する、県が認定したアプリに対するセキュリティ監査など→5,026万円
- ✓ マイME－BYOカルテを災害時に活用する仕組みなどの構築→4,390万円

参考：神奈川県「平成29年度当初予算（案）主要施策の概要」

登録者数の変化
H27：2,724人
H28：15,658人
H29：52,380人

神奈川県
保健医療計画
進捗状況評価調書

総合A評価

目標五万人

総合A評価＝政策成功だとするとアプリ開発面からみると「かごんま健康寿命延伸計画」の成功ラインも利用者5万人前後になるか？

補足 資料

②

南日本新聞デジタル2024/10/11

マイナンバーカードを利用して個人に合った情報を提供しようと、鹿児島市が3月末に運用を開始した市公式アプリのダウンロード数が伸び悩んでいる。3万人の取得目標に対し、8月末でわずか439人。2022～24年度で計約1億7000万円の事業費を計上しているだけに、費用対効果に見合った利用者確保が課題となっている。…アプリ運用を続けるには維持管理費が年2300万円かかり…

アプリ利用者の少なさの原因とは？

● プロモーション不足

魅力的で需要に見合ったアプリでも、認知されなければ利用者は伸び悩んでしまう。しかしプロモーションにも多少の費用が必要になる。

● ユーザー体験(UX)の悪さ

使用感が悪いと感じた場合、継続して利用するユーザーは減少してしまう。デザインや機能性など、多くの要素がユーザーの満足度に直結すると考えられる。

「アプリ＝ユーザーにとっての手軽さ」が習慣化につながるが、慎重に…

補足資料

③

鹿児島県議会 会議録(令和7年第2回定例会/第3日目)

「健康アプリ」について、県議会第2回定例会において答弁が行われた。宝来良治議員、関係部長、塩田康一知事が発言されており、本提案を後押しするものになると判断したため、補足資料として提示する。

参考：鹿児島県「鹿児島県議会 会議録 2025-6-11：令和7年第2回定例会(第3日目)本文」

宝来良治議員

健康アプリの：手軽に参加しやすい仕組みと、何よりも魅力的なインセンティブが必要であります。：鹿児島県の特産品を：使用すること地域活性化にもつながります。

：本年度、独自で健康アプリを導入している市町村はございません。：健康アプリの導入については、他県の運用状況や昨年十月に導入したkencomの実績、民間の無料健康アプリの普及状況を踏まえながら検討していく必要がある…

伊地知芳浩保健福祉部長

：まだまだ県民のごく一部しか健康アプリが普及されていないという状況だと：ここは県民総ぐるみでの健康増進活動ということで健康アプリを県も一体とした取組として、県民全体に広げるようなアプリを県独自として今後、広げていく必要性があると思います。

宝来良治議員

塩田康一知事

：健康の面でそれぞれ個人がしっかりと個人の健康管理をするこの大切さ、そしてまたそれを後押しする手段として健康アプリというものがあるということで：県として今、kencomの普及、導入をしている：その状況とかあるいは民間の普及状況：他県の実績等も踏まえて：必要性について含めて検討していきたいと思っています。

補足 資料

④

アプリ開発が
成功しても、認知
されないと使って
もらえない。この施策
で広報するなら、
どうするか。

★ 鹿児島県公式LINEを活用する

全国的にみても登録者数が多い鹿児島県の公式LINE！その数100万人以上（R7.12現在）！多くの県民に情報を届けるツールの一つであるといえる。公式LINEアカウントの活用のほか、各種SNSも活用していく必要がある。



アプリの広報は
どうしよう？

★ スポーツエールカンパニーとして 連携する企業と一緒に

スポーツエールカンパニーとして、本施策と連携する企業にアプリのPRをお手伝いしてもらう。（例：SNSでPRの投稿を依頼する等）



★ プロスポーツチームと一緒に

スポーツエールカンパニーと同様に、本施策で連携するプロスポーツチームと協力してPR活動を実施！（例：SNS・紙媒体を活用して、試合に参戦するサポーターの方に周知する等）



参考文献

スポーツ庁「スポーツによる地域活性化推進事業 運動・スポーツ習慣化促進事業
取組事例集」

https://www.mext.go.jp/sports/content/1406193_01.pdf

厚生労働省「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023（概要）」

<https://www.mhlw.go.jp/content/001204942.pdf>

鹿児島県「健康かごしま21 令和6年度～令和17年度」

https://www.pref.kagoshima.jp/ae06/kenko-fukushi/kenko-iryo/kenko/kagoshima21/gaiyou/documents/112574_20240430172500-1.pdf

厚生労働省「健康日本21(総論)」

https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s0.html

スポーツ庁「スポーツ庁における 働き世代の運動実施率向上に向けた取組」

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/health_management/pdf/002_s02_00.pdf

鹿児島県オープンデータカタログサイト「鹿児島県年齢別推計人口及び人口動態」

https://data.bodik.jp/dataset/460001_kgod046/resource/5aa49ece-054e-4560-89e4-dbdaf746277b

厚生労働省「健康日本21アクション支援システム～健康づくりサポートネット～”平均寿命と健康寿命”」

<https://kennet.mhlw.go.jp/information/information/hale/h-01-002>

厚生労働省「健康寿命の令和4年値について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001363069.pdf>

鹿児島県「健康かごしま21(平成25年度～令和5年度)の最終評価」

https://www.pref.kagoshima.jp/ae06/kenko-fukushi/kenko-iryo/kenko/kagoshima21/gaiyou/documents/112574_20240430173238-1.pdf

厚生労働省「身体活動・運動」

https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/b2.html

フラ－株式会社「ヘルスケアアプリ市場調査レポート」

<https://www.fuller-inc.com/news/2024/05/healthcareapp-marketreport-2022>

鹿児島県「令和5年度「生涯スポーツ振興のための調査」 公開用資料（結果・分析）」

https://www.pref.kagoshima.jp/bc10/kan/kikan/taiku/shiryou/documents/112311_20240322101830-1.pdf

厚生労働省「マイナンバーカードの保険証利用について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08277.html#kokumin1

鹿屋体育大学「公開講座」

<https://www.nifs-k.ac.jp/social-cooperation/public-lecture/>

総務省「マイナンバーカードの交付・保有枚数等について（令和6年1月末時点）」

https://www.soumu.go.jp/main_content/000929230.pdf

文部科学省「スポーツエールカンパニー2025認定企業一覧」

https://www.mext.go.jp/sports/content/20250207-spt_kensport01-000039815_01.pdf

スポーツ庁「スポーツエールカンパニー2025」認定を追加」

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00201.html

鹿児島県「鹿児島県の地方公共交通の問題点と課題の整理」

https://www.pref.kagoshima.jp/ac08/koutuukeikaku/documents/112595_20240329105646-1.pdf

神奈川県「ME-BYOリビングラボレポート」

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/13141/r6_report.pdf

ニッセイ基礎研究所「健康寿命の延伸とは？」

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=65664?site=nli>

南日本新聞デジタル2024/10/11

<https://373news.com/news/local/detail/202561/>

神奈川県「平成29年度当初予算（案）主要施策の概要」

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/3847/865339.pdf>

神奈川県「神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書」

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/40105/1024_04_02.pdf

鹿児島県「鹿児島県議会 会議録 2025-6-11：令和7年第2回定例会(第3日目)本文」

<https://www.pref.kagoshima.dbsr.jp/index.php/6570051?Template=doc-one-frame&VoiceType=onehit&DocumentID=2683>



THANK YOU!

